

令和7年度 大野城市立大城小学校 校長便り

第3号

(令和7年9月2日)

【文責】校長 平井 源樹

大城の風

～校長室の窓から～



本校ホームページは
こちらから←

夏休みの学校での出来事

9月1日から2学期が始まりました。少しくましくなった子どもたちが、元気に登校してきている姿を見て、とても嬉しい気持ちになりました。約40日間の長かった夏休み、子どもたちにとって、いろいろな出来事や思い出があったと思います。大城小学校でも様々な出来事がありました。その中のひとつを紹介します。

大城小学校には、子どもたちが使う手洗い場が8箇所、トイレが4箇所あります。その手洗い場とトイレの換気扇全てを、とある地域の方がピカピカに磨いてくださいました。手洗い場にはしつこい水垢が、換気扇にはたくさんの埃がびっしり着いていましたが、見違えるほどきれいに輝くようになりました。磨いてくださった地域の方(名前は言わないでほしいということなので言えませんが)は、夏休みの間、お盆などの休みの日を除いて、ほぼ毎日、学校にいられて、磨いてくださいました。「地域の宝である子どもたちが、きれいな学校で、元気に過ごしてほしい」という思いで、磨いてくださいました。その尊い思いと行為に、大変感謝しております。きっと、子どもたちは、心地よさを感じながら手洗い場とトイレを使用すると思います。そして、子どもたちに、きれいに大切に使うという気持ちも芽生えると思います。



地域の方の姿から学ばせていただいたこと

この出来事をもとに、始業式では、子どもたちへ、地域の方の姿から学ばせていただいたことについて話しました。地域の方がしてくださったことは、「人のために、自分ができるところを頑張る」ということ、大城小学校の目標で言うと「善い行いをする」ことです。その善い行いは、まわりの人たちを笑顔にしたり幸せな気持ちにしたりします。子どもたちの生活の中にも「人のために、自分ができるところを善い行い」は、自分から気持ちのよい挨拶をすること、人の話を最後までよく聞くこと、掃除を時間いっぱいもくもくすることなどたくさんあります。そして、2学期は、これらのことをやれる場面がたくさんあります。どんな時、どんなことを頑張るのか、子どもたちと見つけていながら、人のために、自分ができるところを善い行いをする大城っ子をめざして、たくさんの人たちを笑顔にできる2学期にしていきたいと思っています。